

放課後対策に関する区民等との意見交換会実施結果概要及び論点整理

本委員会における放課後対策の調査・検討のため、以下のとおり区民等との意見交換会を開催した。

1 開催日時

令和6年10月1日（火） 午後7時00分～午後7時53分

2 参加者

- （1）墨田区立小学校PTA協議会役員 5人（オブザーバー出席 5人）
- （2）墨田区議会放課後対策・幼稚園の在り方調査特別委員会委員 8人（オブザーバー出席 4人）

3 内容・テーマ

放課後対策について

- （1）子どもたちの放課後の過ごし方の現状と保護者として感じている良い点・悪い点
- （2）区が実施している学童クラブ・児童館・放課後こども教室に対して感じていること・区に対して望むこと

4 意見交換会の概要

- 19：00 開会、委員長あいさつ、出席者紹介
- 19：05 墨田区立小学校PTA協議会側参加者からそれぞれ意見を聴取
- 19：25 質疑応答・意見交換
- 19：50 副委員長総括
- 19：53 委員長あいさつ、閉会

今回のテーマについての主なご意見

1 子どもたちの放課後の過ごし方の現状と保護者として感じている良い点・悪い点

- ・ 6年生の息子は、最近、児童館に出かける回数が増えている。児童館では友達と楽しく遊んでいるようだが、特にコロナ禍で様々なことを制限されてきた世代なので、親としては喜ばしく思っている。
- ・ 高学年になると趣味趣向が確立してくることもあって、低学年の子どもと同じ場所、同じ内容で放課後を過ごすというのは無理があると感じる。
- ・ 高学年の子どもは、放課後、家で一人、又は友達とひたすらゲームをやっていることが多い。外で遊ぶにしても、自転車の運転マナーが気になる。交通ルールの知識がない状態で自転車に乗るのは本当に危ないと思う。
- ・ 高学年になると学童クラブに入れなくなり、放課後、公園で遊ぶことが増えるが、墨田区には大きなものから小さなものまで公園がたくさんあって、とてもありがたい。
- ・ ボール遊びができる公園がほぼなくなってしまった。また、公園で普通に遊んでいても近隣住民から苦情が寄せられることがあると聞く。ボール遊びができて、安心して過ごせる公園があるといいと思う。
- ・ 小学校の近くの公園で、大人が子どもに対して怒鳴ったり難癖をつけたりとといったことが起きている。警察にも協力してもらってパトロールを強化しているが、放課後対策についてはそういったことがあるということも踏まえて検討してほしい。

2 学童クラブ・児童館・放課後子ども教室・長期休暇中の対応等に対して感じていること・区に対して望むこと

- ・ 墨田区は学童クラブが充実していると思うが、それでも学童クラブに入れられなかったという人がいるので、希望する人全員が入れられるようになるといいと思う。
- ・ 高学年になると学童クラブに入れないので、親が共働きの場合、子どもは自宅で過ごすか公園で遊ぶかということになるが、できれば大人の目が届く居場所があるといいと思う。
- ・ 近くに新しい児童館ができ、いろいろとイベントを催してくれることには感謝しているが、もっと高学年の子どもたちも参加したくなるような工夫をしてくれるとありがたい。
- ・ 放課後、児童館で過ごす子どももたくさんいるが、施設のキャパ的にいっぱいになっている。老朽化も進んでいるので、リフォームを検討してほしい。
- ・ 高学年の子ども放課後の居場所として、学童クラブに代わるものはやはり児童館だと思う。児童館のキャパを増やしていくことがそのまま放課後対策となるのではないか。
- ・ 放課後子ども教室でダンスや和太鼓の教室が開催されたが、人数制限があったことで、教室を開催することを知っている限られた子どもしか参加していない状況だった。知らない子どもは知らないままでいいのか疑問に感じるがあった。
- ・ 放課後子ども教室でイベントを実施しているとき、学童クラブの子どもたちはどこか遠慮がちに過ごしている。せっかく同じ場所にいるなら一緒にできないのか。放課後対策に

- ついて特化した部署があったら、こういったことにもスムーズに対応できるのではないか。
- ・ 高学年でいきいきスクールを利用しているのは限られた子どもだけになっている。6時限まで授業があると利用できるのは30分ぐらいしかないといったことも影響していると思うが、改善できないか。
 - ・ 放課後子ども教室が毎日開催されるとなれば非常に助かるが、地域の力でというのであれば実現は難しいと思う。
 - ・ 放課後子ども教室に携わってくれている地域の人には、かなり高齢の人が増えている。最近のような猛暑が続くようであれば、継続が難しくなってしまうのではないかと心配している。
 - ・ 地域の人を中心に去年から放課後子ども教室を開始してもらっているが、やはりボランティアがなかなか集まらなくて苦労している。もう少し区のほうで手助けしてくれてもいいのではないか。
 - ・ 放課後子ども教室については、やはり人手が足りていない。募集しても集まらない。この際、シルバー人材センターなどから派遣してもらうというのも一つの解決策ではないか。
 - ・ 放課後子ども教室の実施回数を増やすためにPTAのほうでうまくやってと言われても、なかなか人が集まらない。何か別の手立てを講じてくれるとありがたい。
 - ・ 放課後子ども教室の内容が学校によってばらつきがあってはいけないと思うが、地域やPTAだけでは難しいところがあるので、外部の力をうまく使えるようになるといいと思う。
 - ・ 放課後子ども教室も、結局、校庭開放ぐらいのことしかできていないところもあるが、どうしたって見守りのための人員が必要になるため、やむを得ないと思う。
 - ・ まずは放課後子ども教室が各学校でどのような状況で実施されているのかを把握するところから検討を始めたほうがいい。
 - ・ 共働きの多いので、夏休みの間だけでも子どもを受け入れてくれる幼稚園や児童館、学童、また違う形ででも何かあるとすごく助かる。
 - ・ 長期休暇中は児童館に行くか家で過ごしているので、もし受け入れてくれる場所があれば、ほかの友達と接する機会が増えていいと思う。
 - ・ うちの子は積極的に外へ出ていくタイプではないので、長期休暇中、何もないとずっと家にいる。何かしら外に出るきっかけをつくってくれるとありがたい。
 - ・ 年齢が高くなればなるほど、家でユーチューブを見ていたりゲームをしたりしているほうが楽しいという子どもが増えてくる。それでも長期休暇中は夫婦で休みをずらして子どもを見ていたりしているので、日中預かってくれる場所があれば助かる。
 - ・ 児童館やコミュニティセンターといった施設が古い、狭いといったことはすぐに解決できないと思うが、だからといってそれ以外の居場所をと言われても、地域で対応していくことはもはや難しい。今あるものをどう活用していくかを考えたほうがいいと思う。
 - ・ 図書館は子どもたちが本を読むようになるし、パソコンにも触れられるので、放課後の居場所としていいと思う。

子どもたちの放課後の居場所に関する論点整理

論点 1 高学年児童の放課後の居場所について

高学年児童（小学校４年生以上）は、原則として学童クラブの利用対象から外れることから、放課後、自宅や公園で過ごすことが多い。健全な育成、放課後の安全確保の観点から、高学年児童の放課後の過ごし方として望ましい形とはどういったものか、また区としてどのような対策、支援が必要なのか、検討する必要がある。

論点 2 学童クラブ・児童館について

放課後の居場所として重要な学童クラブの更なる充実の必要性に加え、児童館においては施設のキャパシティ、老朽化などのハード面の課題、学童クラブへの対応に手一杯であるなどのソフト面の課題に対してどのようにアプローチしていくか、検討する必要がある。

論点 3 放課後子ども教室について

多様な体験や交流を通じて自主性や社会性を育むことを目的とする放課後子ども教室は、その趣旨から実施回数、内容の更なる充実が強く求められる一方、現実問題として担い手不足は深刻であり、運営は厳しい状況にある。本区において、放課後子ども教室をどのように位置付け、どのような形で運営していくことが望ましいのか、検討する必要がある。

論点 4 長期休暇中の子どもの居場所について

共働き家庭などにおいて、日中、親が不在となる夏休み等の長期休暇中における子どもについて、安心・安全に過ごすことができる短期的な受け入れを行う施設等を増やす、又は積極的に外に出るきっかけとなるようなイベントを開催するなど、何らかの手立てを検討する必要がある。